

令和4年12月22日
男女共同参画センター

1 日時 12月16日(金) 19:00~21:00

2 出席者 委員12名(遠藤壽子、岡田治美、浅木直美、佐々木茂文、佐藤沙耶、
倉持若葉、長尾清美、木村美由紀、高野好央、新橋嗣男、望月覚、
國武智子)
事務局2名 ※欠席委員(1名)、傍聴者(なし)

3 あいさつ

(1) 遠藤会長

- お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。
- 本日は、今年最後の会議になります。思ったことを何でも話していただき、次の年の助けになっていけばいいかなと思います。よろしくお願いします。

4 内容

(1) 小・中学生意識調査について

- 事務局から、今後の工程表(案)を提示、説明した。
なお、報告書の作成にあたり、記載内容については本会議の検討結果を踏まえ、グラフ作成及び構成などの体裁については本会議での指摘事項を考慮しつつも事務局に一任いただけるかとの伺いがあった。

⇒「工程表」及び「一任」について、委員各位の了承を得た。

※「一任」の件について、事務局は報告書作成途中で委員各位に確認を得る必要があると判断した場合は、速やかに諮ることといたします。(事務局)

- **報告書案 Ver.1** について、**資料1** を対比させながら、事務局が最初から1問ずつ説明し、それに対し検討/確認を行った。

【調査目的等】【問1】【問2】

- 前回(第3回)運営協議会において、原案のまま了承を得ているので変更なし。
⇒了。

⇒ただし、問2の1ポツ目の表現は、他との横並びで以下のように修正する。

「男女合わせての回答は～小学生全体で～、中学生全体では～」→「全体では～小学生で～、中学生では～」

【問3】

- 前回運営協議会において、「アンコンシャス・バイアス」の解説を挿入することになった。
- これを受けて、「あみっぺ」に追記し、また、「アンコンシャス・バイアス」の解説と

してパネル展等で配布した資料を2ページ分挿入した。

⇒「あみっぺ」の追記については了。

⇒挿入した「アンコンシャス・バイアス」の解説について、1ページ目下段の説明文は大人向けであり、子どもが理解できるような平易な文章(3~4行程度)に変更する。2ページ目は説明が細かくなり過ぎるため、対処法1~3の項目のみ残り削除する。なお、対処法1~3の項目は1ページ目に含め、全1ページとする。

※事務局から：下案はいかがでしょうか。

(案)

性別、血液型、職業などで「△△の人はみんな○○だ」と決めつけていませんか。また、「こうに決まっている、こうある”べき”だ」と自分の主張を人に押しつけていませんか。

このような無意識の思い込みは誰にもあります。これが誰もが持っている「アンコンシャス・バイアス」です。

アンコンシャス・バイアスを解消する対処法

対処法1 決めつけない、押しつけない

対処法2 相手の表情や態度の変化など「サイン」に気づく

対処法3 自分のモノの見方のクセや、思考のクセに気づく

気づくことで、みんな仲良くなれると思うよ。

【問4】

・前回運営協議会において、原案のままで了承を得ているので変更なし。
⇒了。

<問4、問12(3)に関連した討議>

- ・設問に「どう思いますか」とあるが、これは「いやだ」と答える方に誘導していないか。
- ・問12(3)の設問からも、「思う」との答えに誘導しているようにも感じる。何かに気が付かなければいけないといった強迫に感じることはないか。
- ・大人の方が「男女」というのを意識しており、このような設問になるのかもしれない。
- ・この件は、前回運営協議会でも討議されたが、いずれにしても、設問の難しさが残り、今後、設問の在り方について、このようなアンケートを実施するか否かを含め、検討する必要がある。

⇒今回は今回として整理することです。

【問5】

・前回運営協議会において、「ポジティブ／ネガティブ」な「アンコンシャス・バイアス」について触れることになった。
・これを受けて、「あみっぺ」に一部修正した案を記載した。
⇒カタカナ語に括弧で日本語訳を記載しているが、「ポジティブ／ネガティブ」の意味について子どもたちはすでに理解しているので、「ポジティブ／ネガティブ」の日本語訳は削除する。

- ・前回運営協議会后に、「あみっぺ」記載文章のうち、「男のくせに虫も殺せないなんて頼りにならない」は子どもたちの目に触れるとすれば適切な表現に改めた方がよいとの指摘があった。

⇒「男のくせに虫も触れないなんて頼りにならない」に修正する。

【問 6】

- ・前回運営協議会において、原案のままで了承を得ていたが、その後、「考察」の2ポツ目の『「料理ができる」「清潔」「おしゃれ」などはスキルのなところなので、家庭でのお母さんを見てのイメージなのかもしれない。』は、考察のコメントとして、はたしてこのとおりなのかは疑問であり、根拠があるかは不明瞭ではないのかとの指摘があった。

⇒「考察」の2ポツ目は削除する。

【問 7】

- ・前回運営協議会において、前回調査と項目が変わったなかで、特に一人平均件数に係る記載に矛盾や変なところはないか、確認することとしていた。
- ・これを受けて検討し、前回調査と項目と項目数が変更になったことにより、一人平均の件数が単純比較できないと思われることから、一人平均件数に関する記載は削除した。

⇒了。

【問 8】【問 9】

- ・前回運営協議会において、原案のままで了承を得ているので変更なし。

⇒了。

<問 7、問 8 及び問 9 と関連した討議>

- ・前回運営協議会において話題となった「ヤングケアラー」について触れておく必要はないか。
- ・運営協議会では「今回は今回として整理することです」としていること、設問とは直接連結しないこと、提示するには重い課題であり慎重を要することなどから、今回は採用しないこととした。

⇒了。

【問 10】

- ・前回運営協議会において、〇人以上で相手の男子／女子にないものを表にして載せることとしたが、〇人が5人か3人かは未決であった。
- ・検討の結果、前回同様、「5人」とし、「3人」に係る記載は削除することとした。

⇒了。

【問 11】

- ・前回運営協議会において、原案のままで了承を得ていた。
- ・しかし、関連討議での話題を踏まえ、「考察」や「あみっぺ」をもう少し深掘りでき

ないか検討した。

- 「あみっぺ」に記載の「前回調査より～結果なのかな。」は考察欄に記載した。語尾などの表現は変えている。
- 「あみっぺ」欄には以下を追記した。

『学校では、男女を意識しない係名を付けるなどの工夫をしていると聞くので、子どもの認識と整合しているのかな。(例：①係名を会社名のようにする。②水やり係→園芸係。など)』

⇒了。

【問 12 (1)】【問 12 (2)】

- 前回運営協議会において、原案のままで了承を得ているので変更なし。

⇒了。

【問 12 (3)】

- 前回運営協議会において問 12 (1)～(3)に関連した討議があったことを受けて、「考察」の 1 ポツ目の「不公平感」を「不平等感」に訂正した。

また、「あみっぺ」に以下を追記した。

『必ずしも、みんなが「不平等」＝「悪い事」ととらえていないかもしれない。単に平等ではないと感じるだけで、むしろ、「不公平」の方が悪い事という印象を抱くかもしれないね。』

- さらに、欄外に「平等」「不平等」「公平」「不公平」の説明として広辞苑（第 5 版）を引用したものを追記した

⇒了。ただし、広辞苑の最新版は第 7 版なので、記載内容は確認しておく。

<問 4、問 12 (3) に関連した討議>

※問 4 の項を参照のこと。

【問 13 (1)】

- 前回運営協議会において、原案のままで了承を得ていた。
- しかし、問 13 (1)～(3)に関連した討議内容を受けて、「考察」に以下を追記した。

『「男女共同参画社会」は漠然として捉えにくいのではないか。それに対して、「デート DV」や「LGBT」は、情報社会において具体的に認識しやすいのではないか。「男女共同参画社会」の用語の認知度が低いとしても、「デート DV」や「LGBT」といった具体的な用語の認知度が高まれば、結果として「男女共同参画社会」の向上につながるのではないか。』

⇒了。

【問 13 (2)】【問 13 (3)】

- 前回運営協議会において、原案のままで了承を得ているので変更なし。

⇒了。

<問 13 (1) ~ (3) 共通>

- ・欄外にそれぞれの用語の説明文を追記した。

⇒了。ただし、「LGBT」の説明文の中で、「B: ~ (性も男性も~)」→「B: ~ (女性も男性も~)」に修正する。

【問 14】

- ・前回運営協議会において、原案のままです承を得ているので変更なし。

⇒了。

【<最後に>】

- ・前回運営協議会においては抜粋して掲載する「意見・要望」について絞り込みに至らなかった。

- ・そこで、「あみ・男女・まち・ねっと」の方々とともに絞り込みを行い、小・中それぞれ男子4、女子4、他2の計10を選定した。

⇒了。

- ・前回調査と同様に、自由記載の内容別（14区分）の人数を表にして掲載することとした。

- ・14区分が妥当か否かの問題はありますが、比較のためには前回、前々回と同様（14区分）が妥当と判断した。

- ・14区分への振り分けは判定者の個人差に影響されるところはあるが、事務局側の複数名による振り分けによって整理して良いか、伺いがあった。

⇒了。

《報告書の体裁について》

- ・事務局から報告書体裁確認用として**報告書案 Ver.2**が資料として配布され、説明があった。

- ・報告書は、基本的にExcelを用い、1シート1設問（場合によっては複数設問）、シートの集合体として1ファイルを想定しているとの説明。

⇒了。

- ・各設問における項目掲載順について、従来は、設問—グラフ／表—状況説明—考察—あみっぺの1パターンであったが、理解しやすさの観点から状況に応じて以下の2通りから選択したい旨の伺いがあった。

①設問—グラフ／表—状況説明—考察—あみっぺ

②設問—現状説明—グラフ／表—考察—あみっぺ

⇒了。

- ・グラフのラベル軸（0%—100%）の必要性について伺いがあった。

⇒あって構わない。

・グラフのラベル軸（男子、女子、全体、小、中）の表記方法について伺いがあった。
⇒このままとするか、小学生男子、中学生男子、～、中学生全体とするか意見が分かれるところ。

それよりも、男子／女子と全体の間少しスペースを入れて分けた方がみやすいのではないか。

⇒上記については、どちらかというところ「小学生男子／中学生男子／～」とする声が多いように思えるが、事務局の工夫に一任する。

・グラフにおいて、割合の少ない項の上に数値を載せると、グラフ上の当該項の実際に占める幅よりも広く載ることになるため誤解を生みやすくなる。（例：問2の「自分の性について」の「2.反対ならよかったと思っている」）

⇒上記については、事務局の工夫に一任する。

・問5／問6における＜参考＞で示されたグラフの扱いについて伺いがあった。

⇒むしろ、示されたこのようなグラフを前に持って行った方が、表よりもわかりやすいし、インパクトがあると思う。

⇒上記については、事務局の工夫に一任する。

（2）令和4年度講座について

・事務局から、第4回講座「消費者トラブルを防ぐ」が、12月3日（土）に10名の参加を得て開催した旨の報告があった。

・今回も参加者募集には苦労したとのこと。

⇒了。

①第5回講座について

・前回運営協議会では、「日本赤十字社茨城支部」による「防災」講座を第一候補とし、令和5年2月の実施を想定して、今回運営協議会に事務局が具体的な案を提示することとしていた。

・このことについて、準備期間が短いこと（年末年始を挟むこと）、年度末が近づく時期は募集がさらに難しくなること、実技が含まれるがコロナ禍の動向が不透明であること、意識調査報告書の最終作成と重なること、などから、事務局としては実施が困難と判断している旨の説明があった。

⇒了。（第5回講座は行わないこととした。）

②次年度の講座について

・資料に基づき、5分野（防災、ストレス、環境、人権、多様性）各1件、計5件を候補とする案が事務局から提示された。

・前回運営協議会で紹介したもののうち、「ワークライフバランス」は募集条件（対象が比較的若い人）が厳しいこと、謝礼が高めであることなどから、実施は難しいと思われるとの判断が大勢のようなので、事務局としては今回取り上げていない。

⇒了。

【防災】

- ・前回運営協議会で紹介したものであり、前回では、防災分野は3件紹介したが、防災科学技術研究所と千葉県西部防災センターについては、見学が通常モードではない状況が変わっていないので、引き続き「日本赤十字社茨城支部」を第一候補とし、他は状況を見て行くことにしたい旨が事務局から説明された。

⇒了。候補とし、引き続き情報収集する。

【ストレス】

- ・前回運営協議会で紹介したもので、引き続き候補としたい旨が事務局から説明された。

⇒了。候補として引き続き情報収集する。

【環境】

- ・今回が初めての紹介であり、事務局から資料2とともに以下の説明があった。
- ・夏休みに親子で参加できるものはないかと探している中で、阿見町「人材バンク」の令和4年度登録者に挙がっていたもので、講師（Canon社員）は小学生を対象とした環境教育の資格を持ち、リサイクルについて実験などを通してやさしくていねいに授業を行うとの記載があった。
- ・Canonは会社として取り組んでおり、出前講座なので無料とのこと。
- ・登録者に電話とメールで連絡をとったところ、（是非やりたいと）非常に積極的であった。

⇒了。候補として引き続き情報収集する。

【人権】

- ・今回が初めての紹介であり、事務局から資料3とともに以下の説明があった。
- ・地方法務局ごとに出前講座があり、茨城県では水戸地方法務局になる。
- ・出前講座一覧の種別が「人権」の中に、講座テーマが4つ（性的マイノリティ差別について、セクハラ・パワハラについて、インターネットで誹謗・中傷を書き込まれた時の対処、人権擁護について）あり、これらの中から1つを選びたいと考えている。
- ・事前に担当部署に電話で確認したところ、テーマを決めて申し込みしてもらえれば対応可能とのこと、曜日（土日の件）については申し込み時点で相談しようとのことであった。

⇒了。候補として引き続き情報収集する。なお、4つの講座テーマのうち、どれを選択するかは未決。

【多様性】

- ・今年度第1回運営協議会でも紹介があった茨城県ダイバーシティ推進センターの「ぼらりす教室（出前講座）」であり、事務局から資料4とともに以下の説明があった。
- ・8コース用意されているが、この中で「③多様性理解の推進」を第一候補として考えている。
- ・「アンコンシャス・バイアス」は、今年度の男女共同参画のテーマであり、テーマと

しても講座対象者の幅を広げられること

- これまで委員各位から挙がっていた「学生とのワーク」に関する合致するところがあること
 - 以上の理由で選択したが、課題としては参加者募集になる。
 - 特に学生に参加してもらうにはどうしたら良いか、つて/コネが必要になるので、特に大学／大学生の方にはご協力をお願いしなければならない。
- ⇒了。候補として引き続き情報収集する。ただし、参加者募集については工夫の余地あり。※次の【その他】とも関連あり。

【その他】

- 事務局から以下の持ち出しがあった。
- 大学生を含めた討論会形式の講座、包括協定を結んでいる2大学との連携の模索といった宿題をいただいているところ。
- 討論会形式としては「多様性」の項で今回は1案提示した。
- 連携に関しては、広義の男女共同参画に絡むテーマを扱っている研究室や教員が2大学にあるか情報収集を若干ではあるが試みた。
- 倉持委員からは前回、県立医療大に性的暴力をテーマにしている研究室があり、授業もあると伺った。
- 佐藤委員からは、卒業研究の題目一覧などから、水戸キャンパスの人文社会学部や教育学部でそのようなテーマを扱った研究がされているようで、授業で教育学部の教員から「男性の子育て」について考える講義を受けたことがあると伺った。
- 何らかの形で講座に結び付くようさらに情報収集に努めるが、アイデア／提言などを賜りたい。

⇒大学生を含めた討論会形式の講座を企画するとなると、テーマを考慮すれば、茨城大学であれば人文系の研究室／学生となる。

テーマに沿った卒業論文の発表会を行い、意見交換するのはどうか。

討論会形式とするなら、それなりのスキルを持った場を仕切る人が必要になる。→身近な人を呼んで交流することをメインにするなら、それほど専門的にならなくてもよいのではないか。

各大学にはダイバーシティ推進室もあり、茨城大学には男女共同参画に係る専門家（理事など）もいるので、茨城大学の教員でもある浅木委員に、上記内容での講座が可能か、学生の参加が可能か、などの様子について大学側の感触を聞いていただけたらどうか。

⇒浅木委員に大学側の感触を聞いていただくこととした。その結果次第ではあるが、（人文系学生の卒論が来年内に仕上がるものであれば）次年度の候補とする。

- これまで企画し実施した講座は内容としては良いものだと思うが、参加者募集に苦労している。何か打開策はないものか。

⇒講座となると敷居が高いと感じてしまう人、行くのが面倒と思う人が多く、関係者から個人的に誘いがあり参加してみると「良かった」と思う人が多い。関係者が個人的に個人や団体に声掛け誘うことで輪が広がるのではないか。

SNSによる発信や学内メール、阿見町のツイッター、グループLINE等の利用、ほ

か様々な方法を考えては試してみる必要があるのではないか。

連れ出すには労力を要する（参加しやすい環境やお得感がないと難しい）。

⇒引き続き、募集方法を検討して行く。また、事務局及び委員各位は声掛け先の心当たりを探しておく。

(3) その他

①次回の会議について

令和5年3月17日（金） 19:00～ （阿見町中央公民館）

- （内容） ア. 小・中生意識調査について
イ. 次年度の講座について
ウ. パネル展について
エ. センターだよりについて
オ. その他

※本会議においては3月10日に決定していましたが、その後、諸事情により変更せざるを得ない状況になったため、事務局からあらためて委員各位に連絡し調整した結果、3月17日を開催日といたしました。ご協力いただきありがとうございます。

②「令和4年度 阿見町男女共同参画社会推進講演会」の案内（チラシ配布）

※会議冒頭に事務局より説明あり。

日時： 令和5年1月21日（土）10:00～11:30

場所： 本郷ふれあいセンター

演題： 「ゴスペルとBig MaMa と呼ばれた女たち」

講師： Hanna Bunya（はんな ぶんや）